

(政務活動費用)

出張報告書

(様式1)

令和7年10月16日

釧路市議会議長 畑中 優周 様

会 派 名 日本共産党

代表者名 村上 和繁



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受 命 者	小山秀人
出 張 先	泊村原子力発電所
期 間	令和7年 10月 9日 ～ 令和7年10月10日 (2日間)
用 務	原発の視察
調査(研修) 結果等の概要	別紙参照。
備 考	

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。
2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

泊村原子力発電所の視察報告書

令和7年10月9日、10日

小山 秀人

泊原発を視察に行って参りました。100万Kw(釧路火発の9倍)の電気を作り出す巨大施設、壮大な建設物です。

現地説明での800人、5000億円、1500億円との数字が記憶に残ります。800人、泊3号機の2027年に再稼働を目途として従事されている方々の人員数です。5000億円、泊3号機を再稼働させるのに掛かるお金です(放射性廃棄物の処理費用は入っていない)。

1500億円、ウラン燃料を受け入れる港を津波に対応できるように新たな港を作る、そのために掛かるお金です。

原発の稼働には、いつも安全性と経済性(電気料金)の問題が提起されます。3号機の再稼働に向けた原子力規制委員会の長期にわたる審査は、新規制基準への適合性審査が続き、2025年7月に原子力規制委員会から審査書が正式に了承され、新規制基準に適合していると判断されました。全国の原発の中で最も長い期間を要しました。

審査自体は新規制基準に合格したとされていますが、住民からは、福島第一原発事故の経験から、危険性を指摘し、再稼働ではなく廃炉を求める意見もあります。

再稼働に対する住民説明会では、地震や事故発生時の緊急時避難経路や、広域的な避難計画の実効性についての質問や懸念が出されました。

説明では、3号機が再稼働した場合に電気料金の値下げを検討しているとしていますが、明確な金額がはっきり答えていただけませんでした。

仮に値下げ幅がわずかであれば、再稼働に対する道民の支持を得られないこともあり得るかもしれません。

800人、5000億円、1500億円という、原子力事業に掛かるお金は大掛かりです。調整電源として、火力発電もある一定を稼働させるとのお答えもいただきました。

将来的に、再生可能エネルギーなどにも投資を広げ、エネルギーの多様化を進める必要性も出てくるのではとも考えます。

再稼働に向け、道民を対象とした住民説明会をより積極的に開催し、今、原発を動かすことの意義、安全対策などについての詳細な説明を行い、多くの道民の意見を聞いていかなければなりません。